

ASEAN加盟国の「経済大臣」 経済共同体(AEC)創設への牽引役

東南アジア諸国連合(ASEAN)の各分野における経済関連閣僚会合の中でも、その筆頭格でより統括的な役割を担うのが今年で47回目を迎える「経済大臣会合」(日本では経産相がカウンターパート)である。ASEANは今年を期限に「単一の市場と生産拠点」としての「ASEAN経済共同体(AEC)」の創設を目指す。加盟各国の「経済大臣」にはその具体化に向けた牽引役が期待されている。

《マレーシア》

■国際貿易産業相 Minister of International Trade and Industry
ムスタバ・モハメド Dato Sri Mustapa bin Mohamed



「ASEAN経済共同体(AEC)」発足という記念すべき今年(2015年)、ASEAN議長国マレーシアでの開催(8月)が予定されている第47回ASEAN経済大臣会合・閣僚会合の議長を務めることになる。2009年4月のナジブ政権発足時から現職(国際貿易産業相)を務めており、その政策策定・実施の能力に対するナジブ首相

からの信頼は厚い。

*与党第一党「統一マレー国民組織(UMNO)」の古参幹部。元来は財政専門家。マハティール政権時代から企業開発相、第二財務相、首相府相、高等教育相、農相などの閣僚ポストを歴任してきた。政治家然としない誠実な人柄の「実務家」で知られ、UMNOの幅広い党員層から信頼を得ている。過去の党大会での最高評議員選挙(定数25)では常に上位で当選しており、前回(13年10月)の選挙ではトップ当選を果たした。

▼データ：【年齢】64歳(1950年9月25日生まれ)【生地】(北部)クランタン州パチョク【人種】マレー人【宗教】イスラム教【政党】統一マレー国民組織(UMNO)：最高評議員【学歴】(豪)メルボルン大学卒(経済学：首席)/(米)ボストン大学修士(経済開発学)【経歴】財政専門家/[1987年]財務相政務秘書官/[91年]財務省政務次官/[93年]上院議員、(マハティール内閣)副財務相/[95年総選挙]下院議員に初当選、企業開発相(-99年)/[98年]第二財務相を兼任/[99年総選挙]落選、財務相顧問/[2000年6月]UMNO情宣部長/[04年3月総選挙]下院議員に返り咲き、(アブドゥラ内閣)首相府相(国家経済計画担当)/[06年2月]高等教育相/[08年3月]農業・農業関連産業相/[09年4月](ナジブ内閣)国際貿易産業相/[13年5月5日総選挙]下院議員に再選(4期目：UMNO-クランタン州ジェリ選挙区、[5月16日](第2次ナジブ内閣)国際貿易産業相(再任：一現在)

《タイ》

■商業相 Minister of Commerce

チャッチャイ・サーリカンヤ大将 Gen Chatchai Sarikalya



2014年9月のプラユット内閣発足で現職(商業相)に抜擢された。現役軍人(大将)であり、同年10月の定期人事異動で陸軍司令官補から陸軍副司令官に昇格。

*陸軍では主に主計畑を歩み、財務局長、主計副総監、副参謀長(兵站)などを歴任し、「陸軍の財布」の異名を持つ。プラユット首相とは国軍士官学校予科

の同期生。

▼データ：【軍職】陸軍副司令官【年齢】59歳(1955年生まれ)【宗教】上座部仏教【学歴】国軍士官学校予科卒(12期生)/チュラチョムクラオ陸軍士官学校卒【経歴】陸軍財務局長/陸軍主計副総監/陸軍副参謀長(兵站担当)/[2013年10月]陸軍司令官補/[14年5月26日]国家平和秩序評議会(NCPO)経済委員会副委員長(一現在)、[9月

4日](プラユット内閣)商業相(一現在)、[10月1日](国軍定期人事異動)陸軍副司令官(一現在)【兼任】[2014年6月6日]政府投資委員会(BOI)委員(一現在)

《シンガポール》

■通産相 Minister for Trade and Industry

リム・フンキャン(林勲強) Lim Hng Kiang

2004年8月のリー・シェンロン政権発足時から現職(通産相)を務めており、ASEAN加盟国の現職「経済大臣」としては最長の就任期間を誇る。

*リー・シェンロン首相(62歳)を筆頭にする「(建国後)第3世代」の政治家群に属し、同世代のテオ・チーヒエン副首相兼国家安全保障調整相兼内相(60歳)らとともにリー現政権の中核を担う。与党「人民行動党(PAP)」では、同世代の閣僚とは異なり、中執委に入らないで「重鎮(顧問格)」の待遇を与えられている。

▼データ：【年齢】60歳(1954年4月9日生まれ)【人種】華人【政党】人民行動党(PAP)【学歴】(英)ケンブリッジ大学卒(工学士：最優秀)/(米)ハーバード大学行政修士(MPA)【経歴】[1976年]国防省入省/同省G5課長、空軍航空企画部主任などを歴任後、米国留学/[86年]国防省国防政策部長/[87年]国家開発省事務次官補/[91年]国会議員に初当選、国務相(国家開発)/[94年]国家開発相代行兼上級国務相(外務)/[95年](ゴー・チョクトン内閣)国家開発相兼第二外相/[98年]国家開発相兼第二財務相/[99年]保健相兼第二財務相/[2003年8月]首相府相兼第二財務相/[04年8月](リー・シェンロン内閣)通産相/[11年5月総選挙]国会議員に再選(5期目、ウェストコースト集団選挙区：一現在、[5月21日](リー改造内閣)通産相(一現在)【兼任】シンガポール通貨監督庁(MAS)副議長【趣味】水泳、ゴルフ、読書【家族】リー・アイブーン(Lee Ai Boon)夫人(会計士)との間に2男

《ブルネイ》

■第二外交・通商相 Minister of Foreign Affairs and Trade II

リム・ジョクセン Pehin Dato Lim Jock Seng

元外務官僚(事務次官)。ボルネオ国王(首相)が2005年5月、1984年のブルネイ独立以来で最大規模の内閣改造を実施した際に、新設の現職(第二外相)に同国史上初めての華人(非イスラム教徒)の閣僚として就任。東南アジア地域への政治・経済的な影響力を強める中国との外交・経済関係構築などで中心的な役割を果たす。

▼データ：【年齢】70歳(1944年1月22日生まれ)【人種】華人【学歴】(英)スウォンジー大学卒(文学士：社会人類学)/(英)ロンドン大学(LSE：London School of Economic and Political Science)修士(哲学・社会人類学)【経歴】ブルネイ博物館局局長(キュレーター)/外務省ASEAN局長/駐ニュージーランド高等弁務官(大使)/[1986年]外務事務次官(-2005年)/[2003年]枢密顧問官(一現在)/[04年]立法議会議員(任命：一現在)/[05年5月]第二外交・通商相(一現在)

《インドネシア》

■貿易相 Minister of Trade

ラフマット・ゴベル Rahmat Gobel



2014年10月に発足したジョコ・ウィドド(「ジョコウィ」)政権で現職(貿易相)に抜擢された。インドネシアを代表する「プリプミ(民族系・非華人)」実業家。パナソニック(旧・松下電器産業)との合弁事業を基幹として亡父モハマド・ゴベル(Thayeb Mohammad Gobel)が築いた一大複合企業群「ゴベル・グループ」を引き継いだ。入閣までは、中核企業「パナソニック・ゴベル」の会長として(通信、貿易、流通、サービス、食品、ホスピタリティなど)広範なグループ企業の「総帥」を務めてきた。

* 父子二代にわたりインドネシアと日本の友好関係促進に尽力してきた親日家(インドネシア日本友好協会会長)。2011年にはユドヨノ大統領(当時)に随行して来日し、東日本大震災の被災地を訪問して同協会の会員からの義捐金約2,000万円を届けた。

* 現野党・ゴルカル党の総裁で有力な「プリプミ」実業家でもある、アプリザル・バクリ氏と親交が深い(ジョコウィ大統領が同「ラフマット」氏に政権と同党との「橋渡し」役を期待しているとの見方も)。

▼データ：【年齢】52歳(1962年9月3日生まれ)【生地】ジャカルタ【学歴】[1987年] (日本)中央大学商学部卒(商業・貿易学)/[2000年] 拓殖大学名誉博士/[14年] 中央大学名誉博士【経歴】[1988年] 松下電器産業(株)本社・大阪で実地研修/[89年] 「ナショナル・ゴベル」取締役社長付/[91年] 同社企画役員/[93年] 「ナショナル・パナソニック・ゴベル(NPG)」社長(→2004年)/[94年] 「ゴベル・インタナショナル」社長理事(→2014年)/[2004年] 「パナソニック・ゴベル・インドネシア(IHNP)」社長理事、のち会長(→14年)/[06年] 「ゴベル・ダルマ・ヌサンタラ(Gobel Dharma Nusantara)」社長(→14年)/[14年10月27日] (ジョコ・ウィドド内閣)貿易相(一現在)【歴任】インドネシア元日本留学生協会会長/インドネシア赤十字副会長/インドネシア商工会議所(KADIN)諮問委員会副会長/インドネシア経営者協会(APINDO)副会長

《フィリピン》

■貿易産業相 Secretary of Trade and Industry

グレゴリー・ドミンゴ Gregory L. Domingo

2010年のアキノ現政権発足時から現職(貿易産業相)。1980年代は米フィラデルフィア、ピッツバーグ、ニューヨークで複数の銀行・金融機関の投資部門幹部として勤務。帰国後はチェース・マンハッタン銀行〔マニラ〕頭取などを経て貿易産業省次官などを歴任した。

▼データ：【年齢】60歳(1954年9月6日生まれ)【学歴】アテネオ・デマニラ大学卒(経営学・工学)/アジア経営大学院(AIM)経営学修士(MBA)/(米)ペンシルバニア大学(ウォートン校)経済学修士【経歴】投資銀行家/[1989年] チェース・マンハッタン銀行(ニューヨーク)経理担当役員/[1995年] 同行〔マニラ〕頭取(→97年)/[2001年] 貿易産業省次官兼投資委員会〔BOD〕事務局長(→2004年)/「SMインベストメント」社常務取締役/[2010年6月30日] (アキノ政権)貿易産業相(一現在)

《ベトナム》

■商工相 Minister of Industry and Trade

ヴー・ファイ・ホアン Vu Huy Hoang

計画投資省次官からランソン省党委書記などを経て、2007年の第12期内閣発足時に現職に選任。

▼データ：【年齢】61歳(1953年9月20日生まれ)【生地】(紅河デルタ)ハイフォン市【政党】ベトナム共産党(CPV)：中央委員(2006年一)【学歴】(旧東ドイツ)フライベルグ鉱山大学卒/経済学博士【経歴】計画投資省外国投資局長/同省次官/(紅河デルタ)旧・ハータイ省党委副書記/同省人民委員会委員長/(東北部)ランソン省党委書記/[2007年] (第12期内閣)商工相/[11年5月] 第13期国会議員選挙で当選(1期目)、[8月3日] (第13期内閣)商工相(再任)(一現在)

《カンボジア》

■上級相兼商業相 Senior Minister & Minister of Commerce

スン・チャントール Sun Chanthol



2013年9月の現・第4次フン・セン政権発足時に名誉職的な上級相(特命)から現職(商業相：上級相兼任)に異動。1994年に設立されフン・セン首相が議長を務める、政府の投資促進・認可機関「カンボジア開発評議会(CDC)」の「ブレイン」的な存在であり、その事務局長および副議長として一貫して実務の中心を担ってきた。現職就任は、首相に「経済テクノクラート」としての能力を高く評価されての人事とみてよい。

* 1994年に米国から帰国後は長らく「民族統一戦線(フンシンペック党：FUNCINPEC)」に幹部として在籍していたが、2009年1月に「非力」の同党を見限り「カンボジア人民党(CPP)」に移籍。

▼データ：【年齢】59歳(1955年生まれ)【政党】カンボジア人民党(CPP)【学歴】(米)ワシントンD.C.アメリカン大学(AU)卒(経営学)/(米)ペンシルバニア大学ウォートン・ビジネススクール上級経営学課程(AMP)修了(修士)/(米)ハーバード大学行政修士(MPA)【経歴】[1973年] 留学のため渡米/[78年] (米)ゼネラル・エレクトリック(GE)の総務・財務部門で要職を歴任/[94年] 帰国、経済財務省長官兼カンボジア開発評議会〔CDC〕事務局長(→97年)/[99年] (ノロドム・ラナリット)国会議長経済財務担当顧問、「SCインベストメント(株)」社長/[2003年] 下院議員に初当選(FUNCINPEC：カンダール州)/[04年] 公共事業・運輸相/[08年9月] (第3次フン・セン政権)上級相兼カンボジア開発評議会〔CDC〕副議長/[13年9月24日] (第4次フン・セン政権)上級相兼商業相(一現在)【家族】スン・ソーター(Sun Sotha)夫人

《ラオス》

■工業・商業相 Minister of Industry and Commerce

ケムマニー・ボンセナー Khemmani Pholsena



2014年5月中旬に発生したラオス空軍機墜落事故(副首相兼国防相、公安相ら14人死亡)に連動して6月初旬に実施された内閣改造で、副工業・商業相から昇格。工業・商業省で10年以上にわたり外国貿易政策に取り組んできた「テクノクラート」閣僚。

* 内閣改造で異動・解任などがなければ、2016年の次々回(第48回)ASEAN経済大臣会合で議長を務めることになる。

▼データ：【学歴】[1982年] (旧・ソ連)モスクワ国際関係大学卒/同大学修士(国際経済関係学)/[2003年] シンガポール国立大学(NUS)リー・クアンユー公共政策大学院修士(公共経営学：LKYフェローシップ)【経歴】工業・商業省外国貿易局長/副工業・商業相/[2014年6月] 工業・商業相(一現在)【兼任】ラオス中国合同協力委員会副委員長【歴任】世界貿易機関(WTO)統合フレームワーク基金(EIF)ラオス事務局長

《ミャンマー》

■国家計画・経済開発相

Minister for National Planning and Economic Development

カン・ゾー(博士) Dr Kan Zaw

2012年9月に実施されたテイン・セイン政権(11年3月発足)初の内閣改造で副国家計画・経済開発相から現職に昇格。2014年8月に首都ネピドーで開かれた第46回ASEAN経済大臣会合・関連会合で議長を務め上げた。

* マクロ経済学、経済政策分析、地域・都市開発を専門にする経済学者。日本のアジア経済研究所で客員研究員を務めた経歴もある。

▼データ：【年齢】60歳(1954年10月11日生まれ)【民族】ビルマ族【宗教】上座部仏教【学歴】(ヤンゴン)経済学士(経済学)/(オランダ・ハーグ)経済学修士(RDP：地域開発計画)/[1992年] (名古屋)RDP学位(国連地域開発センター〔UNCRD〕研修課程)/(ヤンゴン)文学博士(D. Litt)【経歴】ヤンゴン経済大学(YE)経済学部部長(教授)/YE学長/[2011年3月30日] (テイン・セイン政権)副国家計画・経済開発相/[12年9月7日] (内閣改造)国家計画・経済開発相(昇格：一現在)【歴任】[1996年4月～12月] (日本)アジア経済研究所(IDE/JETRO)客員研究員【家族】既婚

(アジア・リンケージ 勝田 悟)